

授業科目 小児看護学演習

【担当教員名】 松 井 由美子 他		対象学年	3	対象学科	看護
		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 子どもとその家族の日常生活援助や治療・検査・処置に伴う援助を実施するために必要な知識・技術・態度を修得する。子どもの成長発達上の特性をふまえて、具体的な実践方法を学んでいく。実践においては、子どもの権利を尊重した接し方についても学習する。小児看護技術の演習はグループによる自主作成によるロールプレイを取り入れ、各自が役割を決めてグループワークに参加し、その全学習過程をポートフォリオを使ってまとめ、最終評価を行う。					
【行動目標：SB0】 1. 子どものフィジカルアセスメントの方法について述べられる。 2. 子どものフィジカルアセスメントを実施し、得られた情報を系統立てて述べるができる。 3. 子どもの診療や日常生活の援助技術の方法を述べられる。 4. 子どもの診療や日常生活の援助技術を安全に留意して実施できる。 5. 子どもの応急処置の方法と救急蘇生の方法を理解し、説明できる。 6. 子どもの権利や尊厳を守り、子どもへの説明や同意を得る工夫ができる。 7. グループ活動の中で自分の役割を果たすことができる。 8. 目標を持ってポートフォリオを作成し、目標達成についての自己の過程を振り返ることができる。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	授業ガイダンスとグルーピング・個人目標の設定				講義
2	子どもの援助関係形成と環境調整			1～6	講義
3	子どものフィジカルアセスメント（発達診断法・身体計測）			1、2	講義・演習
4	子どものフィジカルアセスメント（バイタルサイン測定法）			1、2	講義・演習
5	日常生活の援助技術（食事・排泄・清潔・衣生活）			3、4	講義
6	演習準備（グループワーク）			7	グループワーク（小児教員全員）
7	診療に伴う援助技術（与薬・検査・処置）			3、4	講義
8	演習準備（グループワーク）			7	グループワーク（小児教員全員）
9	第1回演習「抱っこと授乳・経口与薬と吸入法・輸液療法」			1～7	演習（小児教員全員）
10	第1回演習「抱っこと授乳・経口与薬と吸入法・輸液療法」			1～7	演習（小児教員全員）
11	第2回演習「身体計測・バイタルサイン測定・全身清拭」			1～7	演習（小児教員全員）
12	第2回演習「身体計測・バイタルサイン測定・全身清拭」			1～7	演習（小児教員全員）
13	第3回演習「小児の応急処置と救急蘇生」			5	演習（小児教員全員）
14	ポートフォリオのまとめと発表			8	講義
15	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		ナーシンググラフィカ29 小児看護技術	中野綾美編	メディカ出版	2007・3,360円
		子どものフィジカルアセスメント 写真でわかる小児看護技術	小野田千枝子 山元恵子監修	金原出版 インターメディカ	2001・4,200円 2006・2,625円
その他の資料					
【評価方法】 演習のロールプレイ（60%） ポートフォリオ（40%）			【履修上の留意点】 小児看護学実習に必要な技術演習ですから欠席せず、目標を持ってグループワークや演習に参加し、ポートフォリオによる振り返りを行うことで実習までの課題を明確にしておきましょう。		